

ユニバーサルデザイン2020好事例集

参考資料2

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
新	一般財団法人全日本ろうあ連盟	<p>●全日本ろうあ連盟 新型コロナウイルス感染症に立ち向かう、そして新しい挑戦へ（国内外でのオンライン会議） 緊急事態宣言が発令されたことにより、大規模なイベント等の中止や移動自粛等が要請される中、当連盟も全国ろうあ者大会等の中止や評議員会の延期を余儀なくされました。</p> <p>1年間の運動方針を決める大切な評議員会の開催に向けて検討を行った結果、2020年10月に北海道・埼玉県・京都府・福岡県の4箇所の会場をオンラインでつなぐ形で開催し、また連盟理事会や各委員会の会議もオンライン開催となりました。</p> <p>また、2021年1月18日（月）に第1回デフリンピック準備室会議を開催しました。当日は、緊急事態宣言下ということもあり、対面とオンライン会議を併用した上で、顧問や委員全員のご出席をいただきました。会議では、デフリンピック招致の進捗状況を報告するとともに今後も引き続き一丸となって招致を進めていく事を確認しました。</p> <p>今回の会議で、デフリンピックが目指す情報バリアフリー社会の実現にむけ、日本のスポーツ界が障害のある人もない人もともに一丸となってデフリンピック招致を応援していくことで、スポーツ（デフリンピック開催）を通じた共生社会づくりに取り組むという姿を全国の皆様に示すことができ、非常に意義のある会議となりました。</p>	<p>http://www.jfd.or.jp/2021/01/21/pid21549</p>
新	社会福祉法人全国手話研修センター	<p>●社会福祉法人全国手話研修センターは2002（平成14）年に設立し、「コミュニティ嵯峨野」改修を経て2003（平成15）年9月1日に開館しました。</p> <p>一般財団法人全日本ろうあ連盟、一般社団法人全国手話通訳問題研究会、一般社団法人日本手話通訳士協会の3団体をはじめとして関係機関等とともに連携しながら運営しています。</p> <p>◆手話通訳事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人材養成事業 2. 手話試験事業（手話通訳者全国統一試験・全国手話検定試験） 3. 手話の研究・保存・造語事業 4. 手話普及等関連事業 <p>◆障害福祉サービス事業 就労支援センターとも</p> <p>◆社会貢献事業 亀岡事業所（おぐり）</p>	<p>https://www.com-sagano.com/</p>

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
新	鳥取県 (手話を広める知事の会) 石狩市 (全国手話言語市区長会)	<p>●鳥取県（手話を広める知事の会） 手話を広める知事の会は、手話言語を全国に広げ、手話言語法（仮称）の制定を国に求めるとともに、手話を使いやすい社会環境を全国に広げるため、平成28年7月21日に33道府県の参加のもと設立されました。 平成29年10月13日には、47都道府県の参加を達成し、手話の普及に向けた活動を行っています。</p> <p><これまでに実施した事業></p> <p>①手話言語フォーラムの開催 ②新型コロナウイルス感染症に係る聴覚障がい者の情報保障のための遠隔手話サービスが利用できる環境整備について [厚生労働省] ③台風19号被災地への手話通訳者等派遣に関する緊急提案について</p> <p>●石狩市（全国手話言語市区長会） 2016年3月、国に「手話言語法」の制定を求める意見書が日本国内の全1,788 地方議会で採択されました。また、47の自治体で手話言語条例や情報コミュニケーション条例が採択され、現在検討中の自治体も多数あります。全国市長会からも意見書を提出しており、手話言語法制定への機運が高まっています。 2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、「全国手話言語市区長会」を発足し、聴覚障害者に対する情報保障の環境整備を進め、全国の自治体における施策展開の情報交換等を行います。</p> <p><これまでに実施した事業></p> <p>行政職員手話講習会 手話言語条例を考える行政担当者学習会 全国手話言語市区長会手話劇祭</p>	<p>http://www.ifd.or.jp/sgh/chijinokai</p> <p>http://www.ifd.or.jp/sgh/chokai</p> <p>http://www.ifd.or.jp/info/misc/sgh/20200100-sgh-chokai-pamphlet.pdf</p>
新	外務省	<p>●障害を有する職員が働きやすい職場環境を整えるため集約型オフィス「オフィス・サポート・執務室」を設置 障害を有する職員が能力を発揮できる職場を実現すべく、外務省では平成31年3月、人事課に「オフィス・サポート・チーム」（OST）を設置し、令和元年11月に拡大しました。 省内の各課から依頼される様々な業務をOSTに勤務する障害を有する職員が行います。 OSTには、運営担当職員が常駐し、省内各課室との連絡調整等を担い、障害を有する職員の適性や障害特性等に応じた業務の割り当て等を行います。また、専門的な資格を有する支援員が常駐し、業務面や健康面のきめ細かい支援を実施します。</p> <p>また、室内には車いすに合わせて電動で高さを変えられる机や、視覚障害者が見やすいように文字を大きくする拡大読書機、休憩スペースなどが設置されています。 集約型オフィスの設置により、各職員の適性や障害特性を随時把握してきめ細やかな支援を提供することができ、また省内の各部署から様々な業務を受けることで職務選定の幅が広がります。 施設面においても、ユニバーサルトイレや点字ブロックの増設、カーブミラーや手すりを設置したほか、省内の段差の解消に努めるなど、職員が働きやすい環境整備をすすめています。</p>	

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
新	岡山放送株式会社	<p>●手話が語る福祉 OHK 岡山放送</p> <p>20年以上にわたり、聴覚障害者にもニュースを届けたいと、夕方のニュース番組の中で「手話が語る福祉」というコーナーを企画し、手話通訳者と聴覚障害者の方たちで構成されている手話放送委員会のご協力のもと、月に1回放送をしています。聴覚障害者向けに防災DVDを制作したり、「誰一人情報から取り残されない」という使命のもと、「情報のバリアフリー化」に真摯に取り組まれています。</p> <p>そしてコロナ禍でマスクが聴覚障害者の情報伝達を制限する中、「遠隔手話通訳を活用した記者会見」という新たなスタイルを構築する等、全国の放送局が手話放送を実現するための模範となりえます。</p>	https://www.ohk.co.jp/data/861/specialprogram/
新	映画鑑賞補助アプリ HELLO! MOVIE UDCast	<p>●映画鑑賞補助アプリ「HELLO! MOVIE」「UDCast」で映画鑑賞にもバリアフリーを - 成年者向けコラム 障害者ドットコム</p> <p>映画館のバリアフリー・ユニバーサルデザインは新たな局面を迎えました。端末にガイドデータをダウンロードすることで、映画館にて字幕や音声でガイドしてくれる画期的な補助アプリです。</p> <p>映画鑑賞補助アプリは現在、エヴィクサー株式会社の「HELLO! MOVIE」とPalabra株式会社の「UDCast」が存在し、スマートフォンやスマートグラスにインストールすることで利用することが出来ます。また、「HELLO! MOVIE」の仕組みを拡張し、一般社団法人映画産業団体連合会とともに全国の映画館で「字幕メガネ貸出サービス」を展開しています。</p> <p>●全日本ろうあ連盟、初の製作映画『ゆずり葉』（2009年）は、上映会場750か所、上映回数1250回、動員40万人を突破し、各界から大きな反響を得た。前作から十年余り、国連障害者権利条約の批准を契機にろう者のことばである「手話言語」が認知され、各地で手話言語条例が広がり、教育、司法、医療など、各分野で活躍するろう者も増え、ろう者や手話言語について社会の理解が進んでいる。しかし、「きこえない、きこえにくい」ということによる社会の障壁、差別、偏見はなくなったわけではなく、目まぐるしく変わる社会情勢による新たな問題も生まれ、課題は多く残っている。2017年に創立70周年を迎えた連盟は、きこえに関係なく様々な人々が共生していく社会を目指し、再び映画製作に挑戦した。</p> <p>映画『咲む（えむ）』は、一人の若きろうの女性を通して、喜びや葛藤の中で生き、様々な障壁を乗り越えていく姿から、「ろう者」とは「きこえない」とは何かということ、そして、「手話言語」は魅力的で素晴らしい言葉であること、ろう者独自の文化を市民に広く伝え、ろうの子どもたち、また若いう者、家族等に幅広く夢を与えていく。</p> <p>脚本・監督は『ゆずり葉』に続き早瀬憲太郎。これまでの経験を活かし、きこえる俳優・スタッフと見事に連携し、新たなエンターテインメントを創りあげた。</p> <p>主人公の瑞月役を、NHK「中学生日記」に出演した藤田菜々子（ろう者）が熟演。</p> <p>彼女を見守る家族に高島良宏、鈴まみのろう俳優。村で瑞月を迎えるのは、島かおり、丘みつ子、佐藤蛾次郎など素晴らしい俳優陣。盲ろう者やほかの障害を持つ人たちも出演する映画『咲む』は、観る人すべての人を笑顔にする。</p> <p>【2020年/115分/日本手話言語/日本語字幕/音声ガイド（UDキャスト対応）】</p>	https://shohgaisha.com/column/grown_up_detail?id=1998 https://emu-movie.jp/

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
新	京王プラザホテル（新宿）	<ul style="list-style-type: none"> ● <山崎まゆみのようこそ！バリアフリー温泉> 京王プラザホテル（新宿） 視聴覚障害者にやさしい：東京新聞 TOKYO Web 車いすユーザーばかりではなく、視覚障害や聴覚障害のある人への対応が行き届いています。 例えば、ユニバーサルルームがある階の廊下には、弱視の人にもわかりやすい濃淡がついたじゅうたん＝同く2>＝が敷いてあります。部屋番号は立体的になっており、触れば番号がわかります。 希望に応じて、UDトーク（筆談ボード）が用意され、客室にしながらフロントスタッフと筆談できます。チャイムが鳴ると、室内の各所やバスルームにフラッシュライトが点滅し、バイブレーションも振動します。加えてヘッドの横にあるタブレットに「door 来客」と表示されます。 	https://www.tokyo-np.co.jp/article/74375 https://www.ifd.or.jp/2017/12/11/pid17176
新	徳島県立近代美術館	<ul style="list-style-type: none"> ● 見えなくても聞こえなくても美術鑑賞 徳島県立近代美術館の取り組み10年 徳島の話 徳島ニュース 徳島新聞 障害の有無や年齢に関係なく、誰もが訪れやすい「ユニバーサル・ミュージアム」を目指す徳島県立近代美術館の取り組みが10年目を迎えました。手で触れたり言葉を介したりして作品を楽しめる鑑賞会を催し、視覚障害者が参加しやすい場を提供してきたほか、聴覚障害者に向けては手話による作品解説や筆談で語り合う鑑賞会を企画してきました。当事者の声を取り入れながら工夫を重ね、美術館を多様な人が集える場にしようと試みを続けています。 	https://www.topics.or.jp/articles/-/415808
新	気象庁	<ul style="list-style-type: none"> ● 気象庁の津波フラッグ 2020（令和2）年6月24日に気象業務法施行規則等が改正され、気象庁が発表する津波注意報、津波警報及び大津波警報の伝達に「赤と白の格子模様の旗」を用いることが定められました。 この旗は「津波フラッグ」と呼ばれています。 津波フラッグは、気象庁が開催した「津波警報等の視覚による伝達のあり方検討会」（2019（令和元）年10月～2020（令和2）年2月）において検討されたもので、海水浴場等にいる聴覚障害者等へ津波警報等が迅速に伝わり、命を守ることへつながります。 	（日本聴力障害新聞 2020年4月号 12面）

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
新	国立大学法人筑波技術大学	<p>●筑波技術大学がオンライン講義を見やすく 聴覚障害者の為の大学、国立大学法人筑波技術大学では、きこえない学生にとって「見やすい」講義をと工夫を重ねてきました。</p> <p>①A Vスイッチャーデバイス（ATEM Mini）、②iPad Pro、③ビデオカメラの3つの機材を用意することで、2つの画面を合成させ、手話言語での講義とともに、講義資料のスライドが一画面で見ることができます。</p> <p>更に、Apple Pencilというツールでスライド上への書き込みができるので、よりわかりやすい講義にすることが可能となりました。</p> <p>視覚障害者、聴覚障害者に係るバリアフリーに寄与する事業や研究等が多数あり、これらをリソースとして社会のユニバーサル環境推進に貢献することも同大学の役割のひとつとしている。</p> <p>聴覚障害学生に対しては、学内エリア限定のワンセグ放送や小型プロジェクタによる文字通訳・手話通訳等の表示、DVD（ビデオ）に文字情報を入れる字幕挿入システム等の活用による情報保障を行っている。視覚障害学生に対しては、点字教科書、立体コピー、拡大文字資料等、個々の使用文字に応じた教材を活用している。</p> <p>また、新型コロナ感染拡大により、学生の障害特性に応じた遠隔授業が工夫されている。同大学は、コミュニケーション手段の確認や質疑応答時間の確保のため同時双方向型としているのが特徴である。</p> <p>具体的には、学生数名に対して、担当教員を配置する体制のもと、事前に家庭での通信環境の調査及びPC・ルーターなどの貸出、複数回の通信テストを実施している。その上で、聴覚障害学生については、手話や文字通訳を用いた双方向授業を行い、質問時には画面越しに手話やチャット機能を利用している。また、視覚障害学生には、電子ファイルでアクセスできないテキスト（点字教科書、触図等）を学生個々の状況に応じて郵送、機器の設定や使用方法の個別指導等、配慮と支援を行っている。</p> <p>その他、同大学院を修了した先天性盲ろう者を令和2年度から事務補佐員として採用し、通訳等支援体制を整え、就労をサポートしていることは特筆すべきことである。</p>	<p>（日本聴力障害新聞 2020年8月号 7面）</p> <p>https://www.tsukuba-tech.ac.jp/</p>
新	社会福祉法人日本視覚障害者団体連合	<p>【新型コロナウイルス感染症に関する取り組み】</p> <p>令和2年1月以降、新型コロナウイルス感染症は日本各地で感染が拡大し、視覚障害者の日常生活を脅かす存在となり、様々困り事が発生した。</p> <p>そのため、日本視覚障害者団体連合では、新型コロナウイルス感染症の影響による視覚障害者の困り事を改善するため、以下の試みを実施した。</p> <p>（1）新型コロナウイルス ホットラインの開設（令和2年3月）</p> <p>全国の視覚障害者の困り事を収集することを目的に標記ホットラインを開設し、情報収集に努めた。</p> <p>その結果、多くの困り事の情報が寄せられ、その困り事を元に国等への要望書を提出し、各種施策の改善に繋げることができた。</p> <p>なお、困り事については事例集（取りまとめ資料）を作成し、内外への周知も行った。</p> <p>（2）新型コロナウイルス感染予防における同行援護ガイドラインの作成（令和2年11月）</p> <p>多くの視覚障害者が利用する「同行援護」を安心安全に使うため、本連合の同行援護事業所等連絡会が主体となり、標記ガイドラインを作成した。</p> <p>ガイドラインは、新型コロナウイルスの感染予防を行いながら同行援護を利用するために、事業所・ガイドヘルパー・利用者が守るべき事項をまとめたものになる。</p> <p>完成後、全国の同行援護の事業所、ガイドヘルパー、利用者となる視覚障害当事者に周知を行い、コロナ禍での同行援護の安全を保つことができた。</p>	<p>（1）参考</p> <p>①ホットライン http://nichimou.org/notice/20200925-jim/</p> <p>②事例集 http://nichimou.org/wp-content/uploads/2020/05/jfvi_COVID-19_hotline_Collection-materials_part2_20200626.docx</p> <p>（2）参考</p> <p>①ガイドライン http://nichimou.org/wp-content/uploads/2020/11/accompanying_supportuidelinesCOVID-1920201104.pdf</p>

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
新	難病・慢性疾患全国フォーラム実行委員会（事務局：一般社団法人 日本難病・疾病団体協議会）	<p>●「難病・慢性疾患全国フォーラム2020」を開催 難病や慢性疾患の患者団体など123団体が参加し、11月7日（土）に難病・慢性疾患全国フォーラム2020を開催した。今回は、コロナ禍の中、初のWeb中継で実施。 コロナ禍の中での難病・慢性疾患患者の現状と課題の他、難病等の患者が、「生き辛さ」や「不安感」を解消するため、自治体への要望活動やメディアを使つての広報活動、障害者団体と協働しての活動等様々な取り組みを行っていることなどが紹介され、手帳を持っていない難病等の患者も、地域の協議会等に参画してゆく意義が話し合われた。 また、医療的ケアを必要とする子どもの現状や課題についての発表やディスカッションも行われた。</p>	http://www.nanbyo.sakura.ne.jp/forum2020/index.html
新	NPO法人ICT救助隊	<p>●重症難病患者のコミュニケーション支援者養成講座のオンライン講座を開始 NPO法人ICT救助隊では、ALSなどの重症の難病の患者さんとのコミュニケーション支援（文字盤や意思伝達装置、iPad、iPhoneなどのスイッチ操作、視線入力等）の集合研修を厚労省難病患者サポート事業補助金活用するなどで行ってきたが、コロナ禍の中で、2020年9月より新たにオンライン講座を開始した。 集合研修と同様に体験を重視し、機材を自宅等に郵送。手元に機器がある状態で受講してもらうことにより、説明を聞きながらの機器操作体験が可能。講義の録画も簡単にできるため受講者は好きな時間に録画を見ながら復習ができより充実した機器体験が可能で、Zoomを活用したオンライン研修を拡充したことにより、全国各地からの参加が可能になった。 ・時間と場所の制約が少ないので、2020年9月以降で、すでに10回以上実施。デメリットとしては長時間での研修が難しい、機材の個別発送が必要。今後もリアルとオンラインの両方のメリットを生かした2つの方法での開催が必要と考える。</p>	https://www.rescue-ict.com/
新	一般社団法人 日本難病・疾病団体協議会	<p>●希少な難病の患者会設立や運営への協力 一般社団法人 日本難病・疾病団体協議会（JPA）では、希少な難病の患者をつなぎ、その理解の促進と障害の克服を目指す患者会を設立するための相談を受けるなどの協力を行っている。 希少な難病は、患者数が希少で全国に散在していることなどを理由に、患者や疾患への理解や疾患の情報が少なく、正しい疾患情報を共有したり、交流を深めたり、バリアを減らし療養環境を改善するために必要とされる、「患者会」「設立すること自体が難しい面が多い。 JPAでは発足以来、厚労省難病患者サポート事業補助金も活用しながらこの活動を継続しているが、2020年度は下記の患者会の設立や設立直後の相談を受け、アドバイスや研修の実施等を行った。 ・フォン・ヒッペル・リンドウ病の患者家族会 ・レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症の患者会 ・早産児（超低出生体重児を含む）の患者家族会 ・パーキンソン病の患者支援の社団法人設立 ・プリオン病患者会準備会</p>	https://www.rescue-ict.com/
新	アクセスエール株式会社	<p>●重症難病患者のコミュニケーションのための専用機器の販売開始とスイッチ適合紹介サイトの運用 重症難病患者のコミュニケーションのための意思伝達装置は、大手電機メーカーの生産が終了してしまったため、クラウドファンディングなどを利用し、その開発者が個人で立ち上げたアクセスエール社により、代替となる製品開発目指し、新たに専用機器（ファイン・チャット）が開発された。 製品は、初めて意思伝達装置を使われる方から、他のコミュニケーション機器をすでに使っているというヘビーユーザーの方まで広く利用できるもの。 また、アクセスエール社では、そのほかの意思伝達装置やその使い方などを紹介したサイト、「マイスイッチ」を継続して運用している。</p>	https://accessvell.co.jp/ https://myswitch.jp/

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
新	イオンペット株式会社 ／公益財団法人日本補助犬協会	<p>「ペットと人のしあわせな共生社会をつくる」イオンペットは、補助犬と学ぶ「心のバリアフリー検定」に挑戦し、代表取締役社長を含む役員と本社社員52名が合格。「心のバリアフリー」を推進中。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本社社員研修の実施 補助犬と学ぶ「心のバリアフリー検定」（2020年2月19日） ・店舗責任者等に向け、補助犬と学ぶ「心のバリアフリー検定」実施予定 ・大型店舗の顧客に向け、補助犬と学ぶ「心のバリアフリー検定」実施予定 ・社員研修の実施 「補助犬オンラインセミナー」（2021年3月） ・AEONPETFESにて補助犬啓発ブースの出展と補助犬紹介デモンストレーション（2019年11月2日～3日） ・ペテモタイムス2021年3月号への情報掲載 ・サインージ設置店舗での情報配信（越谷レイクタウン mori 店） 	(20+) 公益財団法人日本補助犬協会 - 投稿 Facebook
新	株式会社マミーマート ／公益財団法人日本補助犬協会	<p>長年、補助犬ユーザーのスーパーマーケット利用促進（76店舗）に尽力する株式会社マミーマート及びグループ企業が、補助犬の啓発と「心のバリアフリー」推進を目的に「もっと知って補助犬！手作り募金箱コンテスト」を開催する。子供たちも参加できる企画に広く参加者を募り、入賞選考会を実施する。</p> <p>【企画内容】</p> <p>3種類の補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）及び「心のバリアフリー」の情報を、折り込みチラシやHPへ掲載する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPへの掲載：3月13日より（内容は順次更新） ・折り込みチラシ掲載：3月13日号、20日号、27日号、4月3日号、10日号、17日号、24日号（全7回） <p>◇応募期間 3月13日～6月13日まで 期間：3か月</p> <p>◇募金箱 形状：牛乳パックなどの紙パック デザイン：自由</p>	http://www.mami-mart.com/
新	公益財団法人 日本補助犬協会	<p>「補助犬セミナー」や「心のバリアフリー勉強会」等の開催</p> <p>「心のバリアフリー」という考え方の普及と浸透を図るため、弊協会は幅広い対象者に向けての勉強会や研修、東京都オリンピック・パラリンピック教育支援事業「補助犬と学ぶ心のバリアフリー」等を実施（オンライン含）している。</p> <p>実施団体（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国盲導犬使用者の会 ・公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会 ・公益財団法人テクノエイド協会（2020年「福祉用具」関係者新年交流会にて） ・日本ヒルズコルゲート株式会社 ・イオンペット株式会社 ・大島椿株式会社 ・東京Ⅱゾーンクラブ ・横浜市笹野台小学校地域防災拠点運営員研修会 ・大磯町立国府中学校 ・江東区立深川第一中学校 ・他 	

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
新	株式会社大塚商会 ／公益財団法人日本補助犬協会	<p>補助犬ケイ君を、大塚商会特別社員「心のバリアフリー大使」に任命。ケイ君は毎月本社に出勤し「心のバリアフリー」事業を推進中。出勤したケイ君はオフィスフロア内をウォーキングし、本社ビル1階総合受付横で社内外に向けて「補助犬の理解」と「心のバリアフリー」を啓蒙しています。また、たのめーるカタログにも登場し「心のバリアフリー理解促進」を発信しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大塚商会選択型社員研修の実施 「心のバリアフリー」を考える～誰もが暮らしやすい社会を目指して～ ・補助犬ユーザーと学ぶ「接遇研修」の実施 ・補助犬仲間の盲導犬や介助犬と「補助犬デモンストレーション」活動 ・「盲導犬歩行」体験会の実施 ・社内報あゆみ「ケイ君だより」への継続投稿 ・その他 <p>【参考】ケイ君は、介助犬として実働していましたが、ユーザーの体調不良で早期引退。その後、大塚商会の「心のバリアフリー大使」に就任いたしました。</p>	<p>https://www.otsukashokai.co.jp/corporate/csr/news/2019/190424.html</p> <p>https://www.otsukashokai.co.jp/corporate/release/2020/200120.html</p> <p>https://www.otsukashokai.co.jp/corporate/csr/news/2020/200204.html</p>
新	公益財団法人 日本補助犬協会	<p>補助犬フォーラム2020 ～“誰一人取り残さない”社会の実現～ 共生社会、補助犬受け入れ拒否ゼロ”を目指して2012年から実施している「第7回もっと知って補助犬キャンペーン」のコアイベントとして「補助犬フォーラム2020」を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 2019年12月20日 ・開催場所 衆議院議員第一議員会館 多目的ホール ・参加者数 150名 ・大会長 公益財団法人日本補助犬協会 代表理事 朴 善子 <p>プログラム1：「心のバリアフリー」勉強会 プログラム2：「補助犬シンポジウム」</p> <p>第1部 障がい者の困りごとを知る ～補助犬ユーザーの立場から～ 中村富美江 & 盲導犬ルーカス・安杖直人 & 介助犬ダンテ・福永順子 & 聴導犬マルコ</p> <p>第2部 障がい体験ワークショップ：点字作成体験・手話講座・車いす体験・視覚障がい体験</p> <p>第3部 パネルディスカッションテーマ：「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会期間中の補助犬ユーザー及び補助犬への対応」</p> <p>オリンピック・パラリンピック等経済界協議会 深澤 昌生 氏 公益財団法人東京都医師会 会長 尾崎 治夫 氏 公益財団法人東京都獣医師会 副会長 小林 元郎 氏 一般社団法人日本プロ野球名球会 監事 駒田 徳広 氏 他</p>	<p>https://m.facebook.com/story.php?story_fbid=2664131250373708&id=367650666688456 Outlook for iOS</p>

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
新	日本ヒルズ・コルゲート株式会社 ／公益財団法人日本補助犬協会	社員である補助犬ユーザー（盲導犬ユーザー1名、介助犬ユーザー1名）を公益財団法人日本補助犬協会に出向させ、「心のバリアフリー」事業を推進中。 ・ヒルズコルゲート社員研修の実施（2019年度集合研修・2020年度オンライン研修） ・補助犬セミナーの実施 ・心のバリアフリーセミナーの実施 ・障害者雇用促進セミナーの実施 ・他（セミナーは、オンライン含む） 【参考】 出向中社員の資格：社会福祉士、日本補助犬協会「補助犬ガイド士」及び「心のバリアフリー認定講師」、組織変革のためのダイバーシティを学び、議論し、考えるOTD普及協会「心のバリアフリー認定講師」、等	協会FB2019,4,11 https://www.facebook.com/hojoken/posts/2167343856719119 ヒルズHP投稿記事(盲導犬・介助犬・聴導犬) https://www.hills.co.jp/dog-care/resources/what-is-a-guide-dog https://www.hills.co.jp/dog-care/resources/what-is-a-assist-dog https://www.hills.co.jp/dog-care/resources/what-is-a-hearing-dog
新	公益財団法人日本ケアフィット共育機構	①障害の社会モデル体感プログラム「バリアフルレストラン」 “障害は社会が作り出す”という障害の社会モデルの考えを、講義や研修ではなく、直感的に体験できるプログラム。 車いすユーザーと“二足歩行者”の立場が逆転した社会を演出し、 社会にある様々な差異の中にある不均衡や不具合について体感することで、 本当の意味で、多様な違いがある人が暮らしやすい共生社会とは何か、を考え、行動変容を目指して実施。 共同開発：東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター 開催実績：①2020年2月13-15日 於：東京大学 参加人数：約150名 ②2021年1月30日 於：共生社会ホストタウンサミットin多摩川 イベントブース内 参加人数：約30名 ②高齢な人、障害のある人への対応のための新型コロナウイルスに感染しない・させないガイドラインの策定 新型コロナウイルス感染拡大により、各業界で感染予防対策のガイドラインが作られたが、 高齢者や障害者にとって不便となる施策もあり、また、事業者もコロナ禍でどのように接すればいいのか課題があった。 事業者や障害当事者団体ら有識者からの意見を取り入れ、 高齢者・障害者等配慮が必要な人の観点を取り入れたガイドラインを策定した。	①バリアフルレストラン https://dare-tomo.team/ ②齢な人、障害のある人への対応のための新型コロナウイルスに感染しない・させないガイドライン https://www.carefit.org/carefit/news/news20201104.php
新	宝塚市／宝塚教育委員会／毎日新聞社（協力：特定非営利活動法人 兵庫介助犬協会・特定非営利活動法人 日本補助犬情報センター）	宝塚市などにより毎年開催されていた補助犬シンポジウムが、2020年度はコロナ禍のためオンライン開催。 【YouTubeの宝塚市広報課チャンネル】にて「第22回身体障害者補助犬シンポジウム～知ってよ！介助犬～」を公開。 宝塚市在住の木村氏の3代介助犬（初代：シンシア、2代目：エルモ、現役：デージー）の歴史や、PR犬による介助犬デモンストレーションを見ることで、より具体的に知ることができる。また、当事者である介助犬ユーザーの体験談や補助犬法の話を通じ、補助犬への理解、障害者への理解、そして他者への理解を育む。	第22回身体障害者補助犬シンポジウム～知ってよ！介助犬～ https://youtu.be/ovwY46vYgOY
新	厚生労働省／特定非営利活動法人 日本補助犬情報センター	2019年8月のこども震が関デ－の厚生省実施企画としての「補助犬ってなあに？」イベントの実施。補助犬3種のユーザーさんのお話を聞き、補助犬たちの実際の仕事を目の前でみることにより、補助犬たちにできること、自分たちにできることを自発的に想像するプログラム。身体障害がある方々に質問をしてコミュニケーションをすることで、より身近に障害者のことを感じられる。	https://www.caresapo.jp/relax/hojoken/45201

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
新	文部科学省／特定非営利活動法人 日本補助犬情報センター	2020年 文部科学省の臨時休業期間における学習支援コンテンツポータルサイト「小学校 各教科等」活用できるリンク集 内で紹介 ○補助犬啓発DVDの動画（Youtube）（特定非営利活動法人 日本補助犬情報センター） ※未就学児～中学生＝「補助犬ってなあに？」 ※小学校高学年～大学生及び教育・福祉関係者＝「補助犬ができること、あなたにできること」	補助犬啓発ビデオの動画集（Youtube） https://www.jsdrc.jp/jsdrc_goods/youtube_hojoken_dvd/
新	神奈川県／特定非営利活動法人 日本補助犬情報センター	令和元年11月13日（水曜日）に県立湘南台高校において、12月2日（月曜日）、9日（月曜日）に県立横浜南陵高校において、「寄付の教室in神奈川」を開催。その中で、補助犬への理解、障害がある方への理解を伝え「心のバリアフリー」について考えた。 寄付月間公認企画として寄付を通して『自分とは違う誰かの立場にたって想像する』ことの大切さを学ぶ。	神奈川県「寄付月間」公式サイト https://www.pref.kanagawa.jp/docs/md5/cnt/f535118/index.html 「寄付のことがわかる本」 https://www.pref.kanagawa.jp/documents/7934/20200430.pdf
新	東京都人権啓発センター／各種学校／ 特定非営利活動法人 日本補助犬情報センター	2020年度 オリンピック・パラリンピック教育としての補助犬介在教育の実施。補助犬3種（盲導犬・介助犬・聴導犬）の仕事内容を知ること、自然と身体障害がある人たちの困りごとに気づき、自発的に「自分にできること」を想像するプログラム。実際の補助犬のデモンストレーションを見るときも、障害当事者の生の話を聞くことで、自分と同じ部分、自分と違う部分、そして自分にできることを考え、周囲のクラスメイトや地域の人々が困っている時に気づけるようになるには？を考える。「心のバリアフリー」動画の視聴とディスカッション含む。	【東京都人権啓発センターコラボ授業・オリパラ授業はじまる！】 https://www.caresapo.jp/relax/hojoken/53927 https://www.caresapo.jp/relax/hojoken/53927
新	特定非営利活動法人 日本補助犬情報センター	2020年度 コロナ禍でリアルな啓発イベントが実施できなくなった中で、普及啓発の歩みを止めることなく、広くSNSを利用して啓発動画の発信を続けている。当事者である実際の補助犬ユーザーさんたちによる、医療従事者への感謝や、実際の補助犬たちの様子を伝えることで、当事者の想いや困りごとを伝え、視聴している社会の構成員一人ひとりが自分にできることを自発的に考えられるようになるプログラム。また、身体障害者補助犬法についても周知している。	日本補助犬情報センターYoutubeチャンネル https://www.youtube.com/channel/UCOz031BbRsBFhifaKpbJ4YA
新	富士レークホテル	我が国の観光ホテル業としては最も先駆的なユニバーサルデザインの客室を展開してきた。1999年に最初の客室ユニバーサルデザインに取り組み現在は総数客室74室の3割に当たる23室をユニバーサルデザイン化。従業員教育を含めてハード・ソフト両面の取組に対し2011年度内閣府バリアフリー・ユニバーサルデザイン功労者表彰特命担当大臣優良賞を受賞。	https://www.fuillake.co.jp/

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
新	東京都オリンピック・パラリンピック準備局 (アクセシビリティ・ワークショップ)	東京都は、東京2020大会に向けて、都立の11競技会場の整備に当たり、「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン」を踏まえるとともに、大会後の利用を見据えて、誰もが使いやすい施設にすることを旨とし、東京都福祉のまちづくり推進協議会に参加している障害のある方や学識経験者などからなる「アクセシビリティ・ワークショップ」を設けた。会議は、全8回実施し、設計段階から様々な意見等を受け、整備方針として取りまとめ、新規施設の整備や既存施設の改修を実施した。	https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/taikaiyunbi/torikumi/facility/accessibility-workshop/index.html
新	茅ヶ崎市バリアフリー基本構想	バリアフリー基本構想の策定過程において、市内の小中学校との連携が行われ、協議会に参加する当事者と小学生、有志教員、バリアフリー担当職員との様々な心のバリアフリーに関わる授業と交流が計4回実施された。バリアフリー基本構想において本格的に小中学校の児童、教員との教育啓発事業が展開された例は極めて少ない。	https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/machidukuri/1015026/index.html
新	日本福祉のまちづくり学会オリンピック・パラリンピック推進委員会	東京2020大会の推進を目的に2017年度から(一社)日本福祉のまちづくり学会内に東京オリンピック・パラリンピック推進委員会が設置された。同委員会ではこれまで、東京都、日本スポーツ振興センター、東京2020大会組織委員会、内閣官房オリパラ室等の協力を得て、各競技場のユニバーサルデザイン化の整備報告、新国立競技場などにおける当事者参加のユニバーサルデザインワークショップの今後の展開等について、学会員、非学会員を対象とした公開シンポジウムを行ってきた。特にオリパラ以降のレガシー展開に向けて、大都市と地方都市との格差のないユニバーサルデザインの推進、そのための市民参加型のユニバーサルデザイン・プロセスの継承について有益な議論を行っている。	http://fukumachi.net/
新	水戸市役所新庁舎	水戸市は、新庁舎建設のプロポーザル公開コンペでユニバーサルデザインの設計要求水準を掲げた。設計者の選定後2014年8月の基本設計から2018年12月の竣工までに計5回のユニバーサルデザインレビューが実施された。ユニバーサルデザインレビューには市内の高齢者、障害者、子育て中団体が参加し、ユニバーサルデザインの専門家がコーディネーターに加わった。この間、トイレや授乳室、サイン計画等ではモックアップ検証を実施し、授乳室のインテリアデザインではデザイン系大学生による市民参加型コンペも行われた。その結果、ユニバーサルデザインの考え方が導入された新庁舎が2019年1月にグランドオープンした。	https://www.city.mito.lg.jp/000271/000273/000281/000485/p014258.html
新	株式会社 スワン	「障がいのある人もない人も、ともに働き、ともに生きていく社会」、このノーマライゼーションの理念を実現させるために設立された会社であり、ヤマトホールディングス株式会社の特例子会社である。パンの製造・販売、コーヒーショップの運営等の業務を展開している。 平成10年、スワンペーカーリー銀座店が第1号店としてオープン、現在、直営5点、フランチャイズ店25店を軸に350名以上の障がい者が就労し、経済的な自立と社会参加を果たしている。	https://www.swanbakery.co.jp/
新	和歌山県立図書館	視覚障害者の方、車椅子利用者、健常者老若男女問わずご利用される皆様にとって優しい施設整備の為に誘導マットを導入。 1F入口からエレベーター、お手洗い、総合カウンター・2Fエレベーターからお手洗い、情報カウンターへの誘導路として整備。 視覚障害者の誘導だけでなく、車椅子・ベビーカー・ブックカート等、車輪の通行もスムーズになり、職員の皆様や、晴眼のご利用者様にとってもより利用しやすい施設として充実。	http://guideway.jp/news/20210108_pickup
新	塩竈市役所	すべての利用者様にとって利用しやすい庁舎を目指し、壱番館庁舎1階に誘導路を設置した。設置箇所は壱番館北1階入口(3か所)から各課・係(生活福祉課・子育て支援課・長寿社会課)の受付までの誘導路を整備。視覚障がい者だけでなく、車いすやお年寄り、ベビーカーなどの通行を配慮して、スロープ形状のユニバーサルデザインの誘導マットを採用。	http://guideway.jp/news/20201028_shiogama-miyagi

	実施者	実施内容	参考資料・URL等
新	(公財) 日本デザインナンバー財団	<p>東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会交通利便性向上事業に対する助成事業</p> <p>○概要 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会特別仕様ナンバープレートの交付に合わせて集められた寄付金を活用し、一般旅客自動車運送事業者がノンステップバス、ユニバーサルデザインタクシー等を導入する際の、車両購入費の一部を助成する事業を実施。</p> <p>○助成実績（令和3年3月19日時点） ノンステップバス 合計64台（助成金交付額合計約4,883万円） ユニバーサルデザインタクシー 合計106台（助成金交付額合計約4,259万円）</p>	<p>(公財) 日本デザインナンバー財団公式ホームページ <助成事業> http://www.d-number.or.jp/subsidy-list/</p>